

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.44
2016-August

発行者 琉球病院事務部長
有岡 雅之

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

琉球病院では、入院患者さまにより良い療養生活を送っていただくため、年間を通じて様々な行事等を計画・開催しております。今回はその中から「チャーびら祭」と「夕涼み会」を紹介させていただきます。

「チャーびら祭」

北Ⅲ病棟看護師長 又吉 直樹

平成28年6月9日(木)、あしびなー体育館において行事委員会の三大大行事である「チャーびら祭」を開催しました。私たちの願いが届いたのか、当日は梅雨明けもしており、やや暑い中での開催になりましたが、晴天で気持ちのいい祭り日和となりました。



プログラムでは、琉星保育園の可愛らしい子供達のダンスも披露され、会場からは「かわいい」等の黄色い声援も飛んでいました。また、現役職員による、琉舞や日舞も披露され普段見えないスタッフの姿に驚いている患者様もいました。患者様も負けずに、12名の方がカラオケを熱唱され、3位までの方には引換券が渡されました。更に、職員OBの方の素晴らしい歌声も披露され、あまりの美声に圧倒され、最後には大きな拍手で幕を閉じました。

病棟内からの患者様は、午前86名、午後104名の方が参加されており、大いに盛り上がりみせた祭りになりました。今後も、行事委員で病院を盛り上げていけるよう企画・運営を行なってまいります。院内の皆さんのご協力をよろしく願います。

西Ⅰ、西Ⅱ病棟夕涼み会

療育指導室長 金城 安樹

7月15日(金)、西Ⅰ、Ⅱ病棟の夕涼み会が開催されました。利用者、ご家族、ボランティア、職員が大勢集まり会場の中庭はほぼ満員。当日は晴天で天候にも恵まれました。院長先生の挨拶にはじまり、地域の方々によるエイサーや三味線、太鼓、盆踊り等で会を盛り上げて頂きました。また、家族会による夜店の運営は利用者の皆さんも大変喜ばれていました。夕涼み会は病院、ご家族、そして地域を含め一体となる事づくりあげられる行事なのです。それは“療育”が求められる姿そのものではないでしょうか。それぞれの役割を發揮し、チーム一体となり利用者さんへ総合的に療育を提供していく事が重要と考えます。夕涼み会をとおして、改めて療育の営みについて振り返る機会ともなりました。参加家族数29家族66名、ボランティア数は約80名、多くの皆様に支えられ利用者さんへ



楽しいひとときが提供できたものと思います。

西病棟は今年7月、開棟40周年を迎えました。その間多くの職員が利用者支援へ懸命に取り組んできました。今回は退職された職員も駆け付けご協力を頂きました。懐かしい顔ぶれに利用者さんやご家族も喜ばれたことでしょう。

病棟建替え計画に伴い、来年が中庭で行う最後の夕涼み会となります。来年も盛大に！楽しみましょう！

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
 - 進捗状況 本体工事：新病棟（第1期工事）完成・・・平成27年7月
 - 新病棟（第2期工事）
 - 雨水配水管盛替工事 完成予定・・・平成29年2月
 - 重心病棟建替等工事 完成予定・・・平成30年10月

教育・研修

- 盆踊り大会 日時：平成28年8月12日(金) 14:00～15:30
場所：あしびなー体育館 内容：盆踊り・模擬店・エイサー・ダンス他

● 地域医療連携室だより

当院は、アルコール専門病棟があり毎日、本人、ご家族、関係機関などから相談があります。本人を受診させたいが拒否している、暴言を吐くなど、ご家族からの相談が多いです。ご家族は疲弊し、巻き込まれ苦しい思いをしています。当院ではアルコール専門相談を行っており、アルコール病棟の看護師が知識や対応の仕方などのアドバイスを行っています。ご家族だけの相談や、本人も受診ではなく相談だけなら受けてもいいと言うケースもあり、専門相談から受診や入院に繋がるケースもあります。アルコール専門相談も随時受け付けていますので、ご相談される方は地域医療連携室にご連絡下さい。アルコール専門相談も随時受け付けていますので、ご相談される方は地域医療連携室にご連絡下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15 (土・日・祝日以外)
TEL：098-968-2133 (代)
内線：231・234
地域医療連携室(直通)
TEL：098-968-3550
FAX：098-968-7370



空床状況

7月27日現在

精神科病棟 3床	認知症 4床	アルコール 1床	児童思春期ユニット 0床
-------------	-----------	-------------	-----------------

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

- 精神科病棟 181床
- 認知症 50床
- アルコール 54床
- 児童思春期 ユニット 4床
- 重症心身 障がい 80床
- 医療観察法 37床



● アクセス

路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス
[77番名護東線]浜田バス停下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向5分

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年に1例目のクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は176例になりました。平成28年6月のCLZ導入は5例でした。このうち4例は他の病院からのご紹介例で、3例は入院中の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様もこれまで多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動もなくなり、隔離は全て解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法) による治療を行っております。平成28年6月の治療実績は2例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

7月14日(木)に東京にて開催された子どもの心の診療ネットワーク事業連絡会において、昨年度の当院の取り組みについて報告しました。今秋には全国の子どもの心の診療ネットワーク事業の事業概要冊子が完成予定です。

翌日は『新たなこども家庭福祉～児童福祉法改正をめぐって～』というテーマで研修会が開催されました。2016年3月29日に閣議決定され、5月27日に成立、6月3日に公布された児童福祉法の今回の法改正のポイントについての説明があり、その他に、要対協と地域連携～精神科医が関わることの意義、最近の母子保健施策について～子育て世代包括支援センターの役割、虐待を受けた子どもの自立支援について、第一線で活躍していらっしゃる先生方による講義がありました。また、熊本地震に関する子どもの心の現状について、地元の先生方や支援に入られた先生から報告がありました。熊本での子どもの支援は始まったばかりで、まだまだ先の長い支援が必要とのことでした。当院の子ども外来受付には熊本支援の際に頂いたくまもんが子どもたちを見守っています。熊本地震の支援について、これからも自分たちにできることをやっていこうと思います。



認知症医療

認知症と虐待について考えてみたいと思います。

新聞やテレビのニュースで認知症の方を介護しているご家族による虐待のニュースが報道されることがあります。ひどい場合は、殺人事件となることもあり、一生懸命介護しているご家族が虐待に至るまで追い詰められる状況を見ると暗い気持ちになります。どうしたら社会的援助の手を差し伸べることが出来たのか、医療・福祉にかかわるものとして力不足を感じます。

虐待はニュースになるような大きな事件ばかりではありません。障害者虐待防止法に規定されているように、能力的に出来ない事を要求する、させる事も虐待になります。認知症の人は出来ない事を目の前にして、恥ずかしさいっぱい、自信を無くし、無気力になっていきます。出来ない事を隠そうとして物事に拒否的になったり、プライドを保とうとして怒りっぽくなります。また、出来ない現実から離れようと、過去の自分が輝いていた時代へ認識が戻っていき、過去の世界に生きる人となります。ニュースにならない小さな虐待ですが、認知症の人にとっては人格を否定され、人生の誇りを傷つけられる耐え難い苦しみとなるのです。

ただ、出来ない事を要求している人は意図して虐待しているわけではありません。認知症についての知識がなかったり、目の前にいる人が認知症だと認めることが出来ないなど、無知や認識不足からくるものがほとんどです。認知症の事を知らないために、ADLの維持・向上を目指して出来ない要求を行うこともあります。認知症という言葉は誰でも知っているのですが、認知症の事はまだまだ知られていないのが現実です。

琉球病院では、認知症の事を多くの方に知ってもらうために「認知症家族教室」を毎月第4木曜日の午後に行っています。興味のある方は、地域医療連携室までお問い合わせください。

重症心身障がい医療

今回は病棟でのひと時を紹介したいと思います。沖縄県高校野球の県予選が盛り上がりを見せる時期のある朝…Yさんが私のもとへ近寄ってこれ話されました。「読谷高校、野球強いかな?」私は答えました、「読谷負けてしまったね」。Yさんは続けます。「中部商業は? 沖尚は? 美里工業は? etc...」次から次へ色々な高校名が出てきます。私は高校野球の結果を懸命に思い出し、できるだけ正確に答えます。しかし、よくこんなに高校名を知ってるなあ～と感心していました。最後にYさんが名護特別支援学校は?と聞いてきました。出場されていないので、なんとも答えづらかったのですが…。Yさんにとって名護特別支援学校は母校なのです。やはり母校には特別な思い入れがあるのだらうなと感じました。Yさんは野球が好きでキャッチボールする姿、一目で経験者である事が分かります。上手だよねYさん! きっと小さい頃お父さんに教えてもらったのかな?

様々な利用者さんに対して、個性に応じたサービスの提供が求められており、利用者さんが楽しめる事が多く見つけられるよう働きかけていきたいものです。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では6月現在、外来通院の患者様60名、入院中の患者様29名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

当院のラクト(R-ACT)で対象とする患者様は、現在5名の方を多職種チームで支援を行っています。1名の方は、支援を行って2年が経過し現在はパートで仕事をしています。3名の方は、作業所に通所しています。1名の方は、福祉サービスの利用はしていませんが、再入院をしないために対処法を考えながら日々地域生活を送っています。当院のACTは本来のサービスの提供ではありませんが、多職種チームでの関わりと、ストレンジモデルに近い支援を心がけています。

臨床研究部活動状況

『精神科新卒看護師の職場適応への支援』 看護師 宇良俊二

精神科病院へ就職した新卒看護師に対し、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年にわたって無記名自記式アンケートを実施した。その結果、退職を考えたことがある者は1名で、仕事で困っているときや対応困難なときに同期からのサポートの有無について、半数が得られると回答であった。仕事で困ったときや対応困難なときに先輩からのサポートの有無については、全員が得られていると回答していた。仕事で困っているときや対応困難なときに上司からのサポートが得られていると感じているかでは、概ね得られていると感じているが、4回目の調査時に1名は得られないと回答していた。自尊感情得点は高い値で推移し、大きな変化はみられなかった。このような結果から、精神科新卒看護師の職場適応への支援は、①希望する病棟への配属を検討する、②常に支援的となれるような職場環境を目指す、③同期同士の交流を支援することが重要であると示唆された。